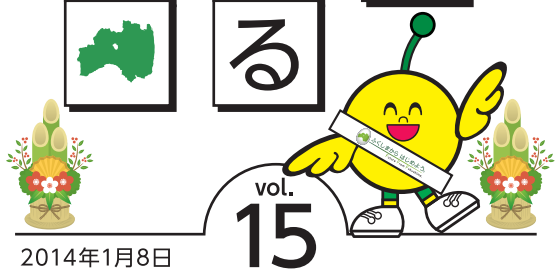
故郷とあなたをつなぐ情報紙

Future From Fukushima
ふくしまから はじめよう。

今 ふくしまの が分かる 新聞



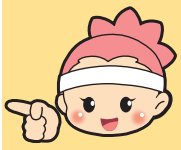
vol. 15

2014年1月8日

発行：福島県避難者支援課　☎024-523-4157

※この広報誌は「東日本大震災子ども支援基金」を財源として発行しています。

新年あけましておめでとうございます。今年も福島の情報を分かりやすくお伝えしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。本号では、**避難されている子育て中の皆さまの安心につながるような話題**を中心にご紹介します。



福島県 新島八重
マスコットキャラクター
「八重たん」

避難する子どものケアと教育支援に関する取り組み

東日本大震災から3年近くが経過した今も、約2万8千人（平成25年10月1日現在）の子どもたちが県内外で避難生活を送っています。長引く避難により家族と離れて暮らすストレスや経済的な負担、あるいは除染に伴う空間放射線量の低下など、様々な要因により県外避難者の数は徐々に減少傾向にありますが、多くの子どもたちは、避難先の慣れない環境の中で生活を続けています。

こうした中、福島県では平成23年5月から、県外の小・中学校に転入または入学した学校に在籍する児童生徒の「教育活動」を行うことを目的に、本県教員を派遣する取り組みを行っています。

派遣教員の中には、通常の教育活動に加え、避難する児童・生徒の多い学校を訪問し、心のケアや学習支援等に取り組まれる先生もあり、それぞれ福島の子どもたちのため日々支援に尽力いただいております。

ここでは、その中のお一人で、平成24年4月より南相馬市の小学校から新潟市立亀田西小学校に派遣されている高田昌幸先生にお話を伺いました。

イメージ

子どもたちの思いに丁寧に寄り添う。

派遣教員へのインタビュー

一昨年の4月、福島県外に避難した児童・生徒の教育活動や心のケアを行うため、新潟市立亀田西小学校に着任しました。ここでは、新潟市教育委員会の御支援をいただきながら、震災によって転校を余儀なくされた子どもたちの訪問活動に奔走しています。

震災当初、南相馬からの避難者を多く受け入れていただいたのは新潟県でした。その後、郡山市や福島市から避難された方も多いですが、親身に対応していただき感謝しています。

新潟市立 亀田西小学校
高田 昌幸先生（南相馬市出身）

力を入れて取り組んでいること

学校を訪問する際には、子どもたちを集めて「おはなし会」というものを開いています。これは、同じ学校に避難してきた子どもたちが自らの現況や悩みなどを話し合うことで、安心と連帯感を持って学校生活を送れるようにするためです。

当然ですが、子どもたちは各地から避難していて、最初は誰が福島の出身かも分からないので、同じ境遇を経験した者同士で顔合わせさせることは重要なことです。

子どもの心の安定には、「保護者」のケアも大切です。訪問の際には、なるべく保護者にも集まっていただく懇談会を開いています。特に、自主的に避難されてきた親御さん同士は知り合う機会が少ないので、これを機に交流を深め、避難生活の悩みを共有したり相談したりする方もいて、「横のつながり」が避難先での心の安定にも繋がっています。また、新潟大学の学生がボランティアで子どもたちの学習（勉強会や一緒に遊んだりといった）支援に取り組まれており、私も微力ながらこれをサポートしています。

子どもたちと接する上で心掛けていること

もちろん、子どもたち自身は望んで転校した子ばかりではありません。ふるさとに残る家族や友達への思い、また、親が我が子を守ろうとする強い思いを受け止め、その狭間で悩む子もいます。私は、渡辺和子さんの『置かれた場所で咲きなさい』という本の言葉を子どもたちに話すことで、どの環境で学ぶことになっても、将来のために勉強や運動に励み、今の時間と出会いを大切にするよう伝えています。

子どもたちの様子や心境の変化など

当初は、福島に帰りたいと願う子どもたちが多かったのですが、中には避難して2年以上が経つ子もいて、友達もでき転校先の学校に馴染んでいる様子も見られます。しかし、長期の休みには地元に戻り、友達と会ったり祖父母や父親と過ごしたりするのを楽しみにしている子が多いですね。今でも、「新潟と福島、どっちがいい?」と聞くと、「それは福島だよ」と答える子がとても多いことに胸が熱くなります。

今後、求められる支援や取り組みについて

避難生活も3年目を迎え、福島に残る家族の方にも疲労感が広がっている印象があります。特に母子で避難された方の場合、父親の方にも移動に伴う負担や一人暮らしが続くことの不安が高まっていて、避難を続けるか、帰還するか揺れ動いている家庭は多いです。

保護者からは、避難前に通っていた福島県の学校において、給食の放射性物質の検査強化や屋外活動などで被ばくに対する配慮はなされているのかといった声が寄せられます。安心して暮らせる環境づくりをしっかり進めていくことが、これらの不安を解消する一番の近道なのだと思います。

また、伊達市や浪江町が新潟県内に相談窓口を開設していますが、避難された子どもや保護者のケアときめ細かな情報提供を行うには、県の駐在や派遣教員数名では十分ではなく、さらなるマンパワーが必要です。それぞれ皆さんは、今後の生活を検討する上で福島の「身近な情報」を求めていますので、それを念頭に、丁寧な支援に取り組む必要があると考えます。

新潟市内における**避難先での子どもの学校生活や進路に関すること**など、ご相談したいことがありましたら、新潟市立亀田西小学校（☎025-382-3041：高田）まで、お気軽にお問い合わせください。

〈HPで新潟県への派遣教員を紹介しています〉
新潟県 避難された方への情報　検索

福島の「魅力ある教育環境」に向けて

東日本大震災により未曾有の被害を受けた本県にとって、これからの復興・再生を担う「人づくり」は何よりも大切です。福島県教育委員会では、子どもたちの生き抜く力を支える確かな学力を身につけることを目的に、土台となる理数教育を推進するとともに、災害時に適切に判断し行動できるよう、防災教育等の取り組みを進めています。

子どもたちの「生き抜く力」を高める

▲幼児と高学年の児童がバディを組み協力し合いながら移動（新地町）

防災教育の推進

東日本大震災の教訓を踏まえ、教職員や児童生徒の防災に対する意識の向上等を図るため、防災に関する指導方法などの開発・普及に取り組んでいます。

また、子どもたちに対しては、安全な避難の方法や避難経路の確認、予告なしでの訓練等を通じ、「自ら判断し行動できる力」を身に付け自他の命を守ることができるよう、防災教育の推進と地域の関係機関との連携を強化しています。

きめ細かな指導と「確かな学力」につなげる

理数教育の充実

子どもたちが本県の将来を担う人材となれるよう、理数教育の充実を進めています。「小学生算数、理科講座」や「算数・数学ジュニアオリンピック」を開催し、理科や算数・数学への興味・関心を高めるとともに、論理的思考力や発想力、直観力を育てる取り組みを行っています。また、少人数教育を充実させ、ティームティーチング等により、子どもたち一人一人の学習状況に応じた指導を行っています。

サポートティーチャー制度

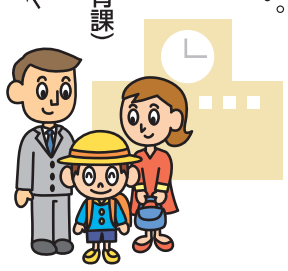
子どもたちの心のケアや学習のつまずきに対してきめ細かに支援するため、希望する小・中学校にサポートティーチャー（退職教員や大学生等）を派遣しています。放課後や長期休業中に個別の相談活動や学習支援を行うとともに、小学校の3年生から6年生までの授業の支援や観察・実験等をサポートしています。

福島県内の学校への転入学や選抜試験などに関する相談は左記の各課にお問い合わせください。

問
○高等学校について（高校教育課）
☎024-521-7772
○小・中学校について（義務教育課）
☎024-521-7774
○特別支援学校について（特別支援教育課）
☎024-521-7780

福島県 教育委員会

検索



本格的な県営復興公営住宅の建設が始まります

原子力災害により避難されている方々のコミュニティの維持・形成の拠点となる復興公営住宅の整備について、平成25年11月に、郡山市日和田地区（4階建て20戸）及びいわき市小名浜地区（5階建て6棟200戸）、また12月には会津若松市古川町（4階建て20戸）において建設工事が始まりました。

なお、今回建設工事に着手した3地区については、今年10月より順次完成する予定で、年内の入居を目指し整備を進めています。

整備の加速化に向けた取り組み

都市再生機構(UR)との基本協定の締結（平成25年11月26日）

福島県はUR都市機構と「復興公営住宅の整備に係る基本協定」を締結しました。この協定はいわき市内に整備する1,800戸のうち1,000戸の建設をURに要請し、建設された住宅を県が買い取るもので、これにより整備の加速化が期待されます。

また、いわき市平地区での復興公営住宅の整備に当たり、最も適した設計者及び施工者を一括して選定するプロポーザル（提案）方式を採用することとしており、今後も様々な整備手法を駆使して工期の短縮に努めてまいります。

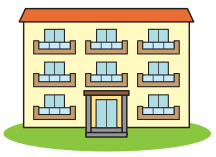
問 福島県庁 生活拠点課
☎024-521-8618
福島県庁 土木部建築住宅課
☎024-521-8049

県外 県外避難者が福島県内に戻る場合の住み替えについて

福島県外に避難している世帯に対し、福島県内に戻る場合の借上げ住宅の住み替え支援を実施しています。

入居期間	平成27年3月31日まで	受付期間	当面の間
受付窓口	避難元（従前の居住地）市町村役場		

対象となる世帯	備　考
地震・津波による住宅全壊等及び避難指示区域等	・県外から県内に戻られる場合、1回限り住み替えが可能です。（ただし、県外から県外、県内から県外の住み替えは対象外）
自主避難者 ※子どもまたは妊婦のいる世帯で、既に借上げ住宅に入居している世帯に限る	・避難元市町村より放射線量が低い市町村への転居が対象です。 ・子どもまたは妊婦のいる世帯とは、平成24年11月1日時点で、子ども（平成23年3月11日時点で18歳以下）または妊婦のいる世帯です。 ・既に住み替え先をご自身で契約された方や過去（支払い済み）の家賃等は支援対象外です。



福島県内の建設型応急仮設住宅については、空き住戸がある場合、子どもの有無等に関わらず、住み替えが可能な場合があります（既に借上げ住宅に入居している世帯に限る）。詳しくは、避難元の市町村にお問い合わせください。

問 ○制度の考え方等に関すること
福島県庁 避難者支援課
☎024-521-8306
○契約・支払い等に関すること
福島県庁 建築指導課分室2
☎024-521-5764

基本調査問診票 簡易版をご利用ください

震災後4か月間の外部被ばく線量を推計する「基本調査問診票」に、より簡易にご記入いただける「簡易版」ができました。この簡易版は、震災後4か月間で大きく移動した回数が1回以下の方のみがご利用いただけます。

基本調査とは

問診票に震災後4か月間のあなたの行動記録をご記入いただくことで、東京電力福島第一原子力発電所の事故によってあなたが受けた外部被ばく線量（推計）が分かります。調査の結果は、一人一人にお知らせします。

基本調査はなぜ必要？

①お一人お一人にとって重要です

ご自身の外部被ばく線量を把握することは、長期に渡って実施していく甲状腺検査や皆さまの健康管理において目安となる大事な資料です。

②福島県の皆さまにとって重要です

皆さまの線量を全体的に分析することは、福島県民の皆さまの今後の健康管理のために重要な基礎資料となります。

「簡易版」をご利用いただける方とは

「当時の行動をよく覚えていない」「記入が面倒」などの理由で問診票に回答できない、というお声をよくいただきます。

そこで、4か月間で移動が少なかった方を対象とし、より簡単にご記入いただける「簡易版」を作成いたしました。

2011年3月11日～7月11日の4か月に、避難や引っ越し等で居住地・学校・勤務先が「変わっていない」または「1回だけ大きく変わった」方が対象となります。

※2回以上大きく変わった方は「簡易版」はご利用いただけません。これまでの「基本調査問診票」をご利用ください。
※既に基本調査問診票の詳細版か簡易版を提出された方は回答不要です。ご自身もしくはご家族の提出状況が分からない場合はお問い合わせください。

問 福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター
☎024-549-5130
（土日祝日を除く 9時～17時）
県民健康管理センター 検索

お知らせ

日本・スイス国交樹立150周年 いわき市 いわきでジャズコンサートを開催

今年、日本との国交樹立150周年を迎えるスイスから、スイス連邦工科大学チューリッヒ校が来日し、県立磐城高等学校の吹奏楽部の皆さんと合同演奏会を開催します（入場無料）。

日時 2月15日（土） 開場13時／開演13時30分
場所 いわき明星大学・児玉記念講堂
問 在日スイス大使館（担当：鈴木）
☎03-5449-8400

県内各地 ふくしま スマイルキャラバン

ふくしまの子どもたちに心も体も元気になってもらうとともに、ふるさとである福島に誇りを持ってもらうため、県内各地域で応援メッセージなどの展示とイベントを開催します。

	内容	期間・日時	会場
いわき	展示会	1月12日（日）～19日（日）	小名浜さんかく倉庫
いわき	イベント	1月19日（日）	いわき・ら・ら・ミュウ
相双	展示会	1月26日（日）～2月2日（日）	野馬追通り銘醸館二番蔵
相双	イベント	2月1日（土）	南相馬市民文化会館多目的ホール

展示会 福島県の子どもたちを応援する人気漫画家、スポーツ選手、芸能人、本県出身の著名人などから寄せられた子どもたちへの応援メッセージやゆかりの品を展示します。

イベント よしもと芸人によるトークショーやワークショップ、キビタン体操など、親子で楽しめるイベントを開催。

問 福島県庁 子育て支援課
☎024-521-7198
ふくしま スマイルキャラバン 検索

本県の意向調査へのご協力をお願いします

この度、福島県では、県内外に避難されている全ての県民の皆さんを対象に、意向調査を実施します。この調査は、皆さんの現在の生活状況やご意向についてお聞かせいただき、今後の支援に役立てることを目的として実施するものです。

つきましては、郵送する調査票に現時点でのお考えをご記入のうえ、平成26年2月6日（木）までに、同封の返信用封筒にてご投函くださいますようご協力をお願いします（切手不要）。

※平成26年1月下旬頃を目途に、本県から避難先の各世帯に調査票をお送りする予定です。
※お手元に調査票が届かない場合、またはアンケート項目などについて不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

問 専用フリーダイヤル 0120-504-570
（設置期間）平成26年1月23日（木）～2月7日（金）
平日：9時30分～12時、13時～17時

子ども支援センター ままカフェ 白河やいわきでもはじまりました！

久しぶりの福島での生活のことや、お子さんのこと、ママ自身のことも含めてみんなでおしゃべりしませんか？

お子さんにはたくさんのおもちゃを、ママたちには美味しいお茶とお菓子をご用意して待っています。いつ来ても、いつ帰ってもOK！ 申し込みもいりません。お気軽にお越しください♪

ままカフェ@しらかわ
ままカフェ@いわき
無料
スタッフやママどうしで“ほっこり”おしゃべりしませんか？

ままカフェ@しらかわ

対象	●避難先から県内に戻ってきた親子 ●県内での子育てに不安を感じている方
日程	1月14日・2月4日・3月4日（すべて火曜日）
時間	10時～12時
場所	マイタウン白河 3階和室（白河市本町2番地）

ままカフェ@いわき

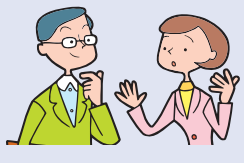
対象	●避難先から県内に戻ってきた親子
日程	1月21日・2月18日・3月18日（すべて火曜日）
時間	10時～12時
場所	いわき産業創造館（いわき市平字田町120番地 LATOV 6F）

問 東日本大震災 中央子ども支援センター 福島窓口
（福島市太田町14-32F 中央子ども支援センター内）
☎024-573-0150
✉info-ccscd@beans-fukushima.or.jp

福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター 情報ステーション「ほっとルーム」を開設しました

「ほっとルーム」は、避難生活を送る子どもたちや保護者の皆さんが、**避難先での学校生活や子育ての悩み**について、「どうしよう」「何かいい方法はないかな？」「どこに相談すればいいのかなあ」と、迷っていらっしゃる時に情報を提供したり一緒に考えたりするための情報ステーションです。一人で考え込んだり悩んだりするのではなく、こども支援コーディネーターと一緒に考えてみませんか？

お電話・メールでの受付後、相談者の皆さまの実情に応じた情報を提供したり、専門的な機関の紹介を行います。なお、大阪市内にもサテライトステーションを開室しています。詳しくは左記の連絡先まで、お問い合わせください。



問 センター子ども支援担当
☎024-504-2875
（月・水・金曜 10時～16時）
✉fure-kodomo@ipc.fukushima-u.ac.jp

編集者

昨年12月、福島の冬の味覚「あんぽ柿」の製造・出荷が、約3年ぶりに再開される明るいニュースがありました。全量検査を行っている伊達市内のセンターでは、消費者の安心を第一に徹底された検査体制が整えられ、スタッフの方も「楽しみに待っている方に早く届けてあげたい」と話されていました。（恥ずかしながら）私も、初めてあんぽ柿を試食。あめ色がかった美しい橙色とスイーツのような上品な甘さがとても印象的でした。【トシ】